

酒田市（東北ブロック）

【計画期間 平成27年4月～令和3年3月】

- ・明治期：郡役所、町役場、郵便局、電話局、警察署、学校などが整備され都市機能の集積が図られる。
- ・大正期：酒田駅が開業し、駅前通りを中心に町並みが形成され、現在の中心市街地が形づくられる。
- ・昭和期：昭和51年「酒田大火」が発生し、中心商店街である中町地区を含む約22.5haが消失。
- ・現在：平成17年、旧酒田市、旧八幡町、旧松山町、旧平田町が新設合併し現在の新「酒田市」となる。

【前計画の概要】

○酒田駅前の大型商業施設跡地整備や観光拠点施設整備などに取り組む事で、にぎわいの創出、観光客の誘引、居住人口の増加を目指す。

（計画期間：平成21年3月～27年3月）

【中心市街地の変化】

○中心市街地まちづくり推進センターを設置し、商店街振策の拡充を図ったことなどにより、歩行者・自転車通行量は改善傾向にあり、中心商店街のにぎわいを創出した。

○海鮮モール整備事業や映画ロケ地の一般公開などにより多くの観光客でにぎわった。

【目指す中心市街地像】

○**湊まちルネッサンス(再興)**

—**湊のにぎわいと交流のあるまちづくり**—

■前計画の目標

目標	指標	基準値	目標値(H26)	現況値
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量(平日)	2,276人 (H20)	3,100人 (H26)	2,194人 (H26)
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,549,077人 (H19)	1,600,000人 (H26)	1,542,055人 (H25)
街なか居住の促進	居住人口	2,954人 (H20)	2,960人 (H26)	2,651人 (H26)

■新計画の目標

目標	指標	基準値	目標値(R2)
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量(平日)	2,718人 (H26)	2,779人
	商店街空き店舗数	99件 (H26)	83件
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285人 (H25)	1,648,000人
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数(平日)	363人 (H25)	953人

にぎわいあふれる商業のまち

訪ねて楽しい観光のまち

市民が集う交流のまち

【主要事業】

- ・にぎわい交流施設整備事業(市庁舎併設)
- ・中町にぎわい健康プラザ整備事業
- ・食の酒田チャレンジ事業

など

【主要事業】

- ・山居倉庫周辺整備事業
- ・旧割烹小幡改修事業
- ・山居倉庫ライトアップ事業

など

【主要事業】

- ・中町にぎわい健康プラザ整備事業
- ・中町庁舎改修事業
- ・にぎわい交流施設整備事業(市庁舎併設)

など

酒田市中心市街地活性化基本計画の事業概要

にぎわいあふれる商業のまち

①中町にぎわい健康プラザ整備事業

大型商業施設跡の空きビルを再生し、街なかの憩いスペースと健康増進スペースを整備し、市民の利便性向上を図るとともに、中心商店街へののにぎわいを創出する。



②食の酒田チャレンジ事業

街なかのにぎわい創出のため、安価な家賃での飲食業のトライアルを実施し、将来の担い手を育成する。

訪ねて楽しい観光のまち

③山居倉庫周辺整備事業

市のシンボルでもある山居倉庫を、隣接する公共跡地と合わせて一体的に整備することで、魅力向上、観光交流機能向上を図る。

④旧割烹小幡改修事業

映画ロケ地として注目を集めた「旧割烹小幡」を、隣接する日和山公園と一体的な整備を行い、回遊性向上を図る。



市民が集う交流のまち

⑤にぎわい交流施設整備事業(市庁舎併設)

市庁舎の改築に合わせ、中心市街地の各エリアに回遊を促すにぎわい交流施設を整備する。



⑥中町庁舎改修事業

公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動の拠点づくりを推進し、新たなにぎわいを創出する。

